



1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	札幌静修学園東校舎	階数	地上3階		
建設地	北海道札幌市中央区南16条西5丁目403番3,403番28,403番29,403番30	構造	S造		
建物用途	学校	平均居住人員	900人		
竣工年	2027年4月 予定	年間使用時間	0時間/年(想定値)		
敷地面積	2,159 m ²	評価の段階	実施設計段階評価		
建築面積	1,294 m ²	評価の実施日	2026年3月11日		
延床面積	3,908 m ²	作成者			
		確認日	2026年3月11日		
		確認者			

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★ **B+**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 一次エネルギー消費量の評価

建物全体の[BEI][BEIm] **0.58**
ZEB/ZEH-Mランク **非該当**

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.9

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項

<p>総合</p> <p>2022年に創立100周年を迎え、次なる100年へ向けて打ち出した「静修100年構想」の中の校舎全面改築プロジェクト。旧校舎は築65年経過し、老朽化に伴い隣地のテニスコート跡地に建替える。住宅地のため、高さを3階で10m以下に抑え、北海道で長年愛用されてきたガルバリウム鋼板の外壁を採用し、街並みと一体となる計画とした。</p>	<p>A 省エネルギー</p> <p>高断熱アルミ樹脂複合サッシ、Low-E複層ガラスを採用し外皮性能を向上した。また、LED照明設備、全熱交換換気設備を導入し、省エネルギー化を図った。</p>
<p>B 省資源等</p> <p>外壁には耐候性、高耐久に優れたガルバリウム鋼板を採用し、高寿命化を図る計画とした。</p>	<p>C 緑化</p> <p>札幌市緑の保全と創出に関する条例の基準に従い、緑化率20%以上の植栽を計画。前面歩道側には芝と生垣を新植し、地域の景観に配慮した。</p>
<p>D 雪処理</p> <p>狭小敷地で落雪による事故を防止するため、無落雪屋根を採用した。また、校舎東面の駐車場の雪処理は駐輪場を堆雪スペースとして利用する計画とした。</p>	

4 ほかの認証・評価制度の利用

(一財)住宅・建築SDGs推進センターのCASBEE認証	なし	BELS認証	なし	LEED認証	なし
上記以外の認証・評価制度の利用	-				

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■環境品質Q = 25 × (Qのスコア - 1)、環境負荷L = 25 × (5 - LRのスコア)より算出

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目	重点 評価項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
			評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル			3.0	0.40		-	2.8	
1.2 遮音			2.6	0.40		-		
1	開口部遮音性能	-	3.0	0.30		-		
2	界壁遮音性能	-	3.0	0.30		-		
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	1.0	0.20		-		
4	界床遮音性能(重量衝撃源)	-	3.0	0.20		-		
1.3 吸音			3.0	0.20		-		
2 温熱環境								
2.1 室温制御			3.0	0.50		-		2.0
1	室温	-	3.0	0.60		-		
2	外皮性能	省エネ	3.0	0.40		-		
3	ゾーン別制御性	-		-		-		
2.2 湿度制御			1.0	0.20		-		
2.3 空調方式			1.0	0.30		-		
3 光・視環境								
3.1 昼光利用			3.0	0.30		-	3.0	
1	昼光率	-	3.0	0.60		-		
2	方位別開口	-		-		-		
3	昼光利用設備	省エネ	3.0	0.40		-		
3.2 グレア対策			3.0	0.30		-		
1	昼光制御	省エネ	3.0	1.00		-		
3.3 照度			3.0	0.15		-		
3.4 照明制御			3.0	0.25		-		
4 空気質環境								
4.1 発生源対策			4.0	0.50		-		3.3
1	化学汚染物質	建築基準法を満たしており、かつ建築基準法規制対象外となる建築材料(告示対象外の建材およびJIS・JAS規格のF☆☆☆☆)をほぼ全面的(床・壁・天井・天井裏の面積の合計の70%以上の面積)に採用している。	4.0	1.00		-		
4.2 換気			2.3	0.30		-		
1	換気量	建築基準法(シックハウス対応含む)および学校環境衛生基準を満たす換気量の1.4倍となっている。	5.0	0.33		-		
2	自然換気性能	-	1.0	0.33		-		

	3	取り入れ外気への配慮		—	1.0	0.33		-	
4.3 運用管理					3.0	0.20		-	
	1	CO ₂ の監視		—	1.0	0.50		-	
	2	喫煙の制御		ビル全体の禁煙が確認されている。または、喫煙ブースなど、非喫煙者が煙に曝されないような対策が十分に取られている。	5.0	0.50		-	
Q2 サービス性能						0.30	-	-	3.2
1 機能性					3.9	0.40		-	3.9
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40		-	
	1	広さ・収納性		—		-		-	
	2	高度情報通信設備対応		—		-		-	
	3	バリアフリー計画		—	3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性					4.0	0.30		-	
	1	広さ感・景観		—	3.0	0.50		-	
	2	リフレッシュスペース		—		-		-	
	3	内装計画		各室の機能に合わせて内装計画、照明計画をベースを用いて行った。	5.0	0.50	1.0	-	
1.3 維持管理					5.0	0.30		-	
	1	維持管理に配慮した設計		外装は耐候性のあるガルバリウム鋼板を採用したほか、スケルトン天井を採用し、メンテナンスをしやすいように配慮した。	5.0	0.50		-	
	2	維持管理用機能の確保		清掃員室、用務員室のスペースの確保、各所に掃除用流しを配置し、維持管理作業が行いやすい計画とした	5.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性					2.8	0.30		-	2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振					2.2	0.50		-	
	1	耐震性(建物のこわれにくさ)		—	2.0	0.80		-	
	2	免震・制震・制振性能		—	3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.7	0.30		-	
	1	躯体材料の耐用年数		—	3.0	0.20		-	
	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	21年以上～30年未満	4.0	0.20		-	
	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	11年以上～20年未満	4.0	0.10		-	
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	—	3.0	0.10		-	
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	主要な用途上位3種の、2種類以上にC以上を使用	4.0	0.20		-	
	6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	16年以上～30年未満	4.0	0.20		-	
2.4 信頼性					3.0	0.20		-	
	1	空調・換気設備		—	3.0	0.20		-	
	2	給排水・衛生設備		—	3.0	0.20		-	
	3	電気設備		—	3.0	0.20		-	
	4	機械・配管支持方法		—	3.0	0.20		-	
	5	通信・情報設備		—	3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性					2.7	0.30		-	2.7
3.1 空間のゆとり					2.2	0.30		-	

	1	階高のゆとり		—	1.0	0.60		-	
	2	空間の形状・自由さ		0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3	4.0	0.40		-	
	3.2 荷重のゆとり			—	3.0	0.30		-	
	3.3 設備の更新性			—	3.0	0.40		-	
	1	空調配管の更新性		—	3.0	0.20		-	
	2	給排水管の更新性		—	3.0	0.20		-	
	3	電気配線の更新性		—	3.0	0.10		-	
	4	通信配線の更新性		—	3.0	0.10		-	
	5	設備機器の更新性		—	3.0	0.20		-	
	6	バックアップスペースの確保		—	3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)						0.30		-	2.9
1	生物環境の保全と創出		緑化	—	2.0	0.30		-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮		緑化	周囲の住宅に配慮し高さを3階で10m以下の低層のボリュームとした。前面歩道側には芝と生垣を新植し、地域の景観に配慮した。	4.0	0.40		-	4.0
3	地域性・アメニティへの配慮			—	2.5	0.30		-	2.5
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	雪処理	—	3.0	0.50		-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化	—	2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性								-	3.4
LR1 エネルギー						0.40		-	3.9
1	建物外皮の熱負荷抑制		省エネ	BPI= 0.72 品確法= モデル建物法による評価	5.0	0.20		-	5.0
2	自然エネルギー利用		省エネ	—	2.0	0.10		-	2.0
3	設備システムの高効率化		省エネ	BEI= 0.58 —	5.0	0.50		-	5.0
4	効率的運用			—	1.0	0.20		-	1.0
	集合住宅以外の評価				1.0	1.00		-	
	4.1	モニタリング	省エネ	—	-	-		-	
	4.2	運用管理体制	省エネ	—	1.0	1.00		-	
	集合住宅の評価							-	
	4.1	モニタリング	省エネ	—				-	
	4.2	運用管理体制	省エネ	—				-	
LR2 資源・マテリアル						0.30		-	3.0
1	水資源保護			—	3.4	0.20		-	3.4
	1.1	節水		節水コマなどに加えて、省水型機器(擬音、節水型便器など)などを用いている。	4.0	0.40		-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			—	3.0	0.60		-	
	1	雨水利用システム導入の有無		—	3.0	0.70		-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無		—	3.0	0.30		-	
2	非再生性資源の使用量削減			—	2.9	0.60		-	2.9
	2.1	材料使用量の削減	省資源	—	2.0	0.10		-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	省資源	—	3.0	0.20		-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	—	3.0	0.20		-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	—	1.0	0.20		-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	省資源	—	3.0	0.10		-	

	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	スケルトン天井のため設備更新の際は容易に取り外すことが可能	5.0	0.20	-	-
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	3.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		-	3.0	0.30	-	-
	3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-
	1 消火剤	省資源	-	-	-	-	-
	2 発泡剤(断熱材等)	省資源	-	3.0	0.50	-	-
	3 冷媒	省資源	-	3.0	0.50	-	-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	3.4
1	地球温暖化への配慮	省資源	-	3.8	0.33	-	3.8
2	地域環境への配慮			3.1	0.33	-	3.1
	2.1 大気汚染防止	省資源	燃焼機器を使用しておらず、対象建築物の仮想閉空間から外部空間に対して大気汚染物質を全く発生しない。	5.0	0.25	-	-
	2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 緑化 雪処理	-	2.0	0.50	-	-
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-
	1 雨水排水負荷低減	省資源	-	3.0	0.25	-	-
	2 汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-
	3 交通負荷抑制		適切な台数の駐車場・駐輪場の確保をしている。また、管理用車両の出入口を周辺環境にあわせて計画した	5.0	0.25	-	-
	4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理	-	3.0	0.25	-	-
3	周辺環境への配慮			3.3	0.33	-	3.3
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
	1 騒音		-	3.0	0.50	-	-
	2 振動		-	3.0	0.50	-	-
	3 悪臭		-	-	-	-	-
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.4	0.40	-	-
	1 風害の抑制		-	3.0	0.60	-	-
	2 砂塵の抑制		舗装又は芝で計画している	5.0	0.20	-	-
	3 日照阻害の抑制		-	3.0	0.20	-	-
	3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		広告物照明を行っていない	4.0	0.70	-	-
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-



■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2021v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2021(ver.1.0)

1 建物概要		BEE	1.3	BEEランク	B+
建物名称	札幌静修学園東校舎				
建物用途	学校				
延床面積	3,908.4 m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー		
	省資源等		
	緑化		
	雪処理		
		<p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>	

3. 重点項目のCASBEEスコア		合計	
A 省エネルギー (最高点 23.5 最低点 5.8)		17.7点 /23.5点	
Q1 温熱環境	スコア 0.8 /1.4	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア 4.0 /4.0
Q1 光・視環境	スコア 1.3 /2.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア 0.8 /2.0
		LR1 設備システムの高効率化	スコア 10.0 /10.0
		LR1 効率的運用	スコア 0.8 /4.0
B 省資源等 (最高点 23.7 最低点 7.7)		14.6点 /23.7点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア 0.8 /1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア 5.2 /9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.9 /2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア 1.3 /1.9
		LR3 地球温暖化への配慮	スコア 3.8 /5.0
		LR3 地域環境への配慮	スコア 2.6 /4.4
C 緑化 (最高点 15.3 最低点 3.1)		8.5点 /15.3点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア 1.8 /4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア 1.0 /2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア 4.8 /6.0		
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.9 /2.3		
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)		3.0点 /3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.0 /1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア 2.0 /2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数